

高生産性の水産業をめざして。

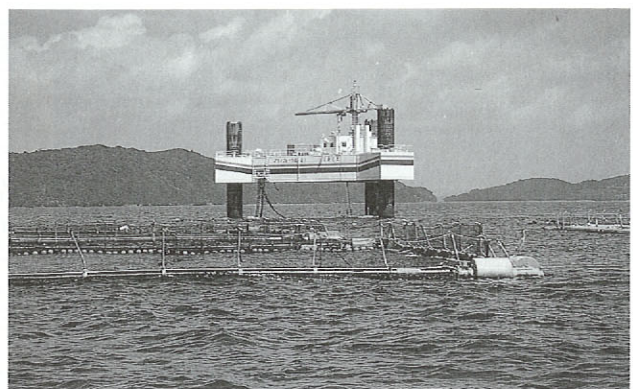
本県の漁業は、三つの豊かな漁場を舞台に早くからつくり育てる漁業に取り組んできました。しかし、一方で漁場の環境悪化とそれに伴う資源の減少が進み、さらには漁業従事者の高齢化といった課題も出てきています。近年、海との新しい関わり方を示す「資源管理型漁業」が注目されています。今回は「資源管理型漁業」の推進を中心に、県の様々な取組みを紹介します。

豊かな漁場と多種多様な漁業

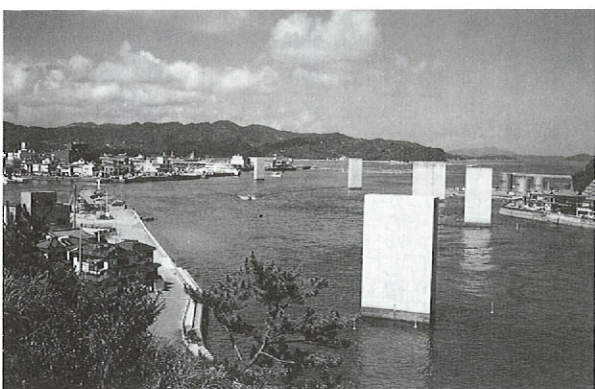
熊本県は有明海と不知火海、天草西海の三つの海域に接しており、それぞれの特色を生かした漁業が行われています。有明海と不知火海には広大な干潟が広がり、主に、ノリ、アサリなどの漁場です。入り江の多い天草群島を含んだ不知火海では、マダイ、ブリ、真珠、クルマエビなどの養殖が盛んに行われています。また、外洋と接して

いる天草西海は外洋性の漁場で、ヒラメ、イセエビ、アワビ、ウニ類など多種の魚介類のほか、対馬暖流の影響から、イワシ類やサバ類などの回遊性魚類も豊富にとれています。生産量では、海面漁業が養殖業を上回っていましたが、近年、海面漁業は減少、養殖業は増加傾向にあります。また、漁業従事者は、高齢化と後継者不足により、二〇〇〇年には現在より約二割減少すると考えられています。

700漁業から1000漁業へ



自動給餌システムなどを備えた沖合養殖パイロットファーム。八代海



牛深漁港修築事業で建設中の牛深漁港連絡橋

の減少は、「資源略奪型漁業」への反省を促し、資源の動きや漁場の状況を管理して、資源の維持増大を図ろうという「資源管理型漁業」へと変わってきました。注目すべきは、漁業者自らが「資源管理計画」を作り、自主的に実行しているということです。活動の核となる漁協の役割も重要になってきました。漁協の体制を強化するために、県では「二市町村に二組合を目標に、漁協合併や事業統合を積極的に進めています。

課題1

限りある資源。

——豊かな海づくり
魚のすみ場となる魚礁を設置するなど、漁場の造成を図っています。また、生産性が低下したアサリ漁場などについても、漁場価値を回復させるための保全事業に取り組んでいます。

課題2

大消費地から離れている。

——生産・流通システムの確立
マダイやヒラメを中心に、種苗の放流や「稚魚はとらない」といった漁獲自主規制など、「資源管理計画」を進めています。流通に関しては、漁協の体質を強化し、共同販売による経営の安定化を図ります。また、昨年から消費拡大を図るため「お魚フェア」やモニター制による「料理教室」も始めています。

課題3

就労者の高齢化が進んでいる。

——多様な担い手の育成と確保
若いリーダーの育成を図り、漁業者の自主的活動を支援しています。小中高生に対するPR活動も行っています。また、地域の担い手育成の核となる漁業協同組合の体質強化を図るために、漁協合併などにも取り組んでいます。

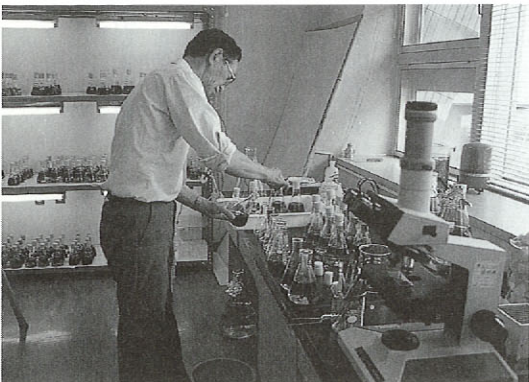
課題4

産地間競争が激しくなった。

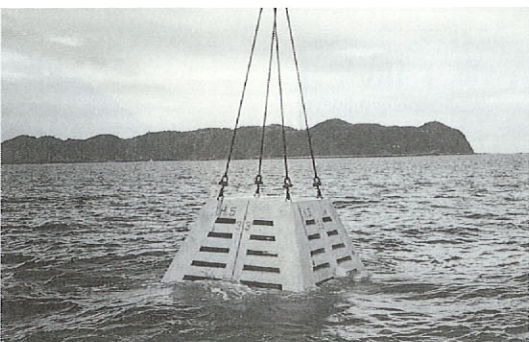
——水産技術の開発・普及
県水産研究センターでは、バイオ技術の開発を行い、資源の開発・増大を図るとともに、鮮魚輸送技術の開発などにも取り組んでいます。



御所浦近海ではタイなどの養殖が盛んに行われている



21世紀をにらんだ研究・開発が進む県水産研究センター



魚礁を入れる。牛深市桑島